

平成27年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立鯉江東小学校

平成28年3月

大阪市立鯉江東小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

学校教育目標 仲良く 強く 正しい子どもの育成を図る

目指す子ども像

- ・ 仲良く 違いを認め合う子ども・異文化を尊重する子ども
- ・ 強く 自分の責任で選択し、判断し、表現する子ども
- ・ 正しく 正義を愛する子ども

目指す学校像

- ・ 子どもも教職員もいきいきと活動する学校
- ・ 学びにふさわしい環境の整った学校
- ・ 筋の通った秩序のある学校
- ・ 指導力を高める研修・研究活動の活発な学校
- ・ 尊敬と信頼のある穏やかな温かい学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」の結果、平均正答率は国語 A・算数 A・B 問題で大阪市・全国を上回っている。国語 B 問題のみ大阪市・全国の平均正答率を下回り、活用する力に課題がある。学習に対する好嫌は良好であるが、論理的な言語活動に関しては抵抗感を感じている児童が多い。また、読書が好きな児童の割合も低い。
- 学習理解度到達診断では、どの学年にも 2 極化の傾向が認められる。平均正答率では、理科はどの学年も良好であるが、算数・社会科の思考・判断等の問題で課題の認められる学年が多い。
- 生活習慣では、学習時間・テレビ等でゲームの両項目で長い時間を費やしている児童が多い。
- 体力・運動能力に関しては、総合的な運動能力は、男女とも良好である。大阪市・全国平均を大きく上回る種目と下回る種目がある。柔軟性と持久力に課題が認められる。
- あいさつ、自尊感情や規範意識に関しては、一定の成果は上がっているものの、課題がまだ認められる。児童アンケートでは、多くの項目で肯定的な回答が高い数値をしめしている。しかし「はい」と積極的に答えている児童の割合が低い項目もある。
- 保護者アンケートの結果は、肯定的な回答が高い数値を示す項目が多い。ただし、児童アンケートと同様、積極的な回答の低い項目が認められる。生活習慣の改善に課題があると考えている。

中期目標**【視点 学力の向上】**

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の平均正答率を全国平均と同程度にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の本校の学校生活アンケート調査で国語・算数の「授業の内容がわかる」と回答する児童の割合を毎年全学年で前年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を全学年で 50% 以上にする。 (マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 27 年度の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を平成 24 年度より 5 ポイント以上増加させる。
 - ・ 自分にはよいところがある。
 - ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきている。
 - ・ きまりや約束事を守っている。
 - ・ 進んであいさつをしている。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を全学年で 50 % 以上にする。(マネジメント改革関連)
- 平成 27 年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を 80 % 以上にする。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 27 年度末の学校生活アンケート調査で「健康に気をつけている」の項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を 80 % 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について毎年、「当てはまる」と答える児童の割合を 70 % 以上、「どちらかといえば当てはまる」と答える児童を合わせて 90 % 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末までに、体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈とソフトボール投げの記録で大阪市平均を上回る。(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 本年度の学習理解度到達診断において、2 極化傾向の改善を図る。(カリキュラム改革関連)
- ② 理由づけをして意見を述べたり書いたりできる児童の割合を 50 % 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、国語・算数の授業の内容が「わかる」と回答する児童を昨年度より増加させる。(カリキュラム改革関連)
- ④ 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を昨年度より向上させる。(マネジメント改革関連)
- ⑤ 本年度末の読書アンケート調査で、次の各項目について、肯定的な回答の割合を平成 26 年度より増加させる。
 - ・ 本を読むのが好き。
 - ・ 本をよく読む。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を昨年度より増加させる。
- ・ 自分にはよいところがある。
 - ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきている。
 - ・ きまりや約束事を守っている。
 - ・ あいさつをしている。
- (カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を昨年度より増加させる。
- (マネジメント改革関連)
- ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を75%以上にする。
- (カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で健康に関する項目について、「(どちらかといえど) 当てはまる」と答える児童の割合を80%以上にする。
- (カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合を70%以上、「どちらかといえど当てはまる」を合わせた肯定的な回答の児童の割合を90%以上にする。
- (カリキュラム改革関連)
- ③ 本年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈の記録で前年度より上回る。
- (カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

学校教育目標ならびにめざす子ども像・学校像をもとに「運営に関する計画」を策定し、学校運営に取り組んだ。年度目標の達成に向けた取り組み内容と指標を設定することで方向性を具体化し、教職員の共通理解を図ることができた。客観的な評価をめざし、本年度も指標の工夫・改善に努めたが、検討は継続していく必要がある。意識調査は他の要因に左右されることがあるので、客観性を高めるため多様な調査データを併用できるようにする。なお、前年度よりよい数値を目標にするだけでなく、良好な項目については現状を維持していくことも大切な指標である。

視点ごとの総括は次の以下のとおりである。

○ 学力の向上

- ・ 教職員一丸となって研究・研修に取り組み、十分な成果をあげることができた。
- ・ 年間計画や組織的な取り組みにより、習熟度別少人数授業や特別支援教育を充実させることができた。児童一人一人にあった学習指導が行われている。
- ・ 学習理解度到達診断は、分析ソフトを活用できるように準備を進めている。単元テスト・漢字や計算など小テストの正答率の分布、視写の速度の調査結果などから、基礎的な学力の定着や2極化傾向が緩和されていると考えられる。
- ・ 学習ノートやワークシートの記述から、学習のめあてをとらえた意見を書いている児童は半数に達している。また、指導・助言により理由づけして記述できる児童も半数に達しているが、進んでできるところまでには至っていない。

- ・ 児童アンケートでは、指標とした前期と後期の比較では、国語・算数ともにわずかに下回ったが、昨年度後期よりは上回っている。なお、肯定的な回答は前後期ともに90%を超えている。
- ・ 保護者アンケートは、学力の定着について肯定的回答は2ポイント増え約94%になった。また「できている」という回答は昨年度より約10ポイント増え、約44%で年度目標を達成することができた。ただし、学年による差が認められる。
- ・ 読書については、校内研究にあわせて多様な取り組みを行った。読書アンケートでは、各調査項目で肯定的な数値が増えており、年度目標を達成することができた。

○ 道徳心・社会性の育成

- ・ 計画した取り組みや行事は、すべて実施できた。
- ・ 自尊感情や規範意識に関する項目は、指標とした4項目のうち、4項目すべてで肯定的な回答が昨年度を上回った。生活強調週間のチェックカードの集計でも、できた割合は昨年度より約3ポイント増えているので、意識は高まっていると考える。
- ・ 保護者アンケートで「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」に対して、肯定的な回答は昨年度より約10ポイント(86.7%→97.3)増えた。その内「できている」も約10ポイント(29.2%→40.9%)増えており、年度目標は達成することができた。
- ・ 地域・PTA・関係機関と連携し、防災・安全教育は確実に実施できた。毎年の積み重ねで意識化を図ることもできており、児童の意識も「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」に対して肯定的な回答は約95%に達している。ただし、「知っている」と回答している児童の割合は、低学年の方が高い。

○ 健康・体力の保持・増進

- ・ 健康的な生活習慣は、ハンカチ・ティッシュの携帯に焦点化した取り組みを継続した。年度末の学校生活アンケートで肯定的な回答が85%を超えた。とくに、「はい」と回答している児童の割合も約86%で、昨年度より3ポイント伸びた。食育も同様、栄養教諭による指導を日々の給食指導等で生かすことができた。ただし、朝食については、肯定的な回答が90%を超えているものの、本年度は約3ポイント減っている。家庭への啓発が必要である。
- ・ 「運動することが好き」に関しては、学校生活アンケート調査結果では、年度目標とする数値を5ポイント程度下回った。また、「きらい」と回答している児童の割合もわずかではあるが増えている。外遊びに関しては肯定的な回答が約14ポイント(67.1%→81.2%)増えているので、取り組みを継続する。なお、学年差が認められるので、実態把握に努めたい。
- ・ 体育的活動は、体育科授業の充実と地域・PTAとの連携により、設定した指標に関しては成果をあげることができた。
- ・ 体力テストの結果は、男女とも半数以上の種目で全国・大阪市の平均値を上回り、概ね良好である。ただし、課題とする長座体前屈は、全国・大阪市の平均値を下回り、柔軟性に課題が残った。記録でも前年度をわずかに下回ったことから、継続的な指導に加えて、児童が日常的に取り組むような指導の工夫が必要である。